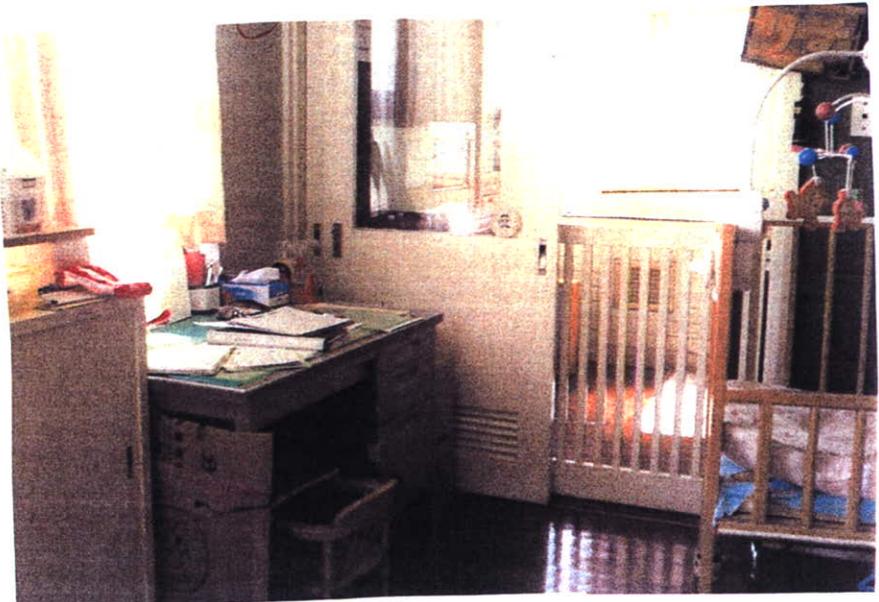
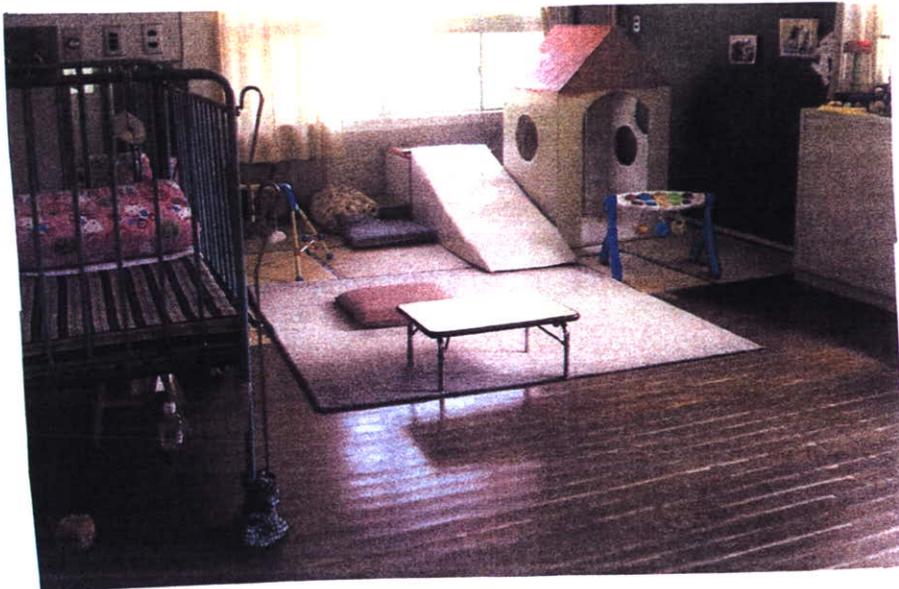
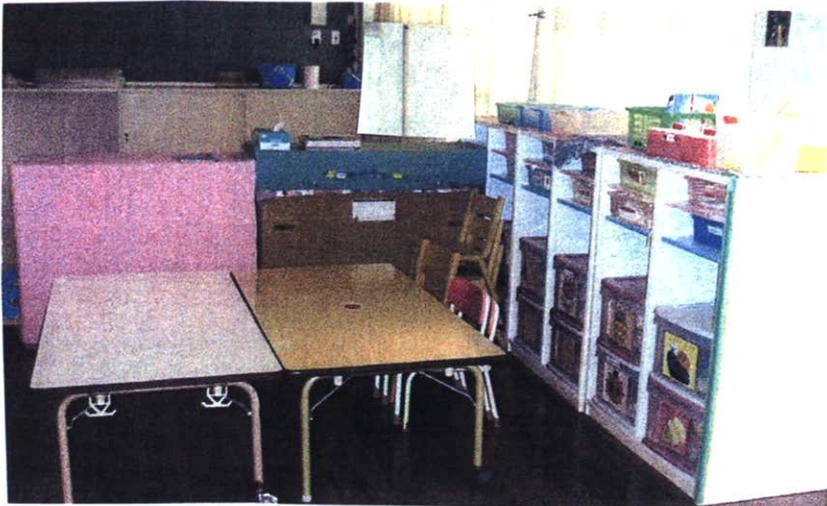
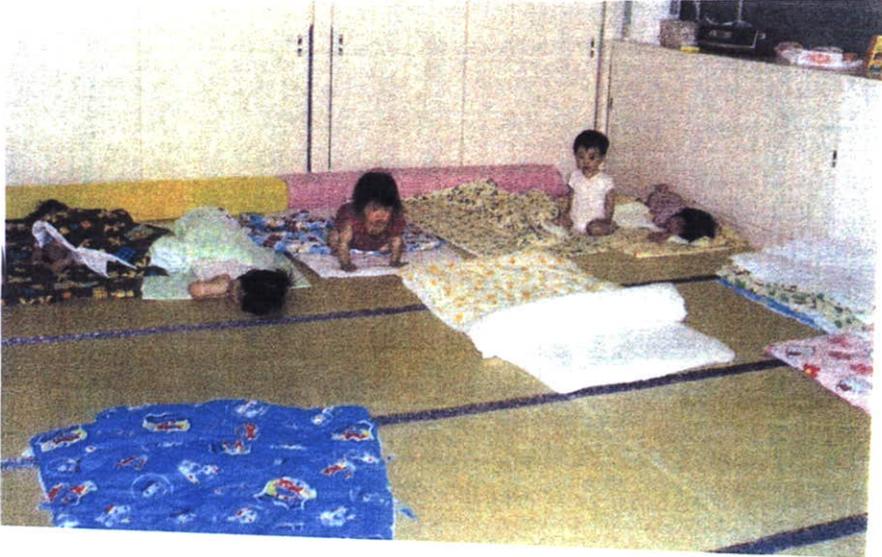


b 室内の様子





c 保育方針

・すべての子どもが心身ともに豊かな成長発達を遂げるために、日々安定した生活と充実

した活動ができるようにする。

・保護者と地域と十分連携を取り合い、子どもの実態と保育ニーズに沿ったきめ細やかな

保育活動を行う。

(育てほしい子ども像)

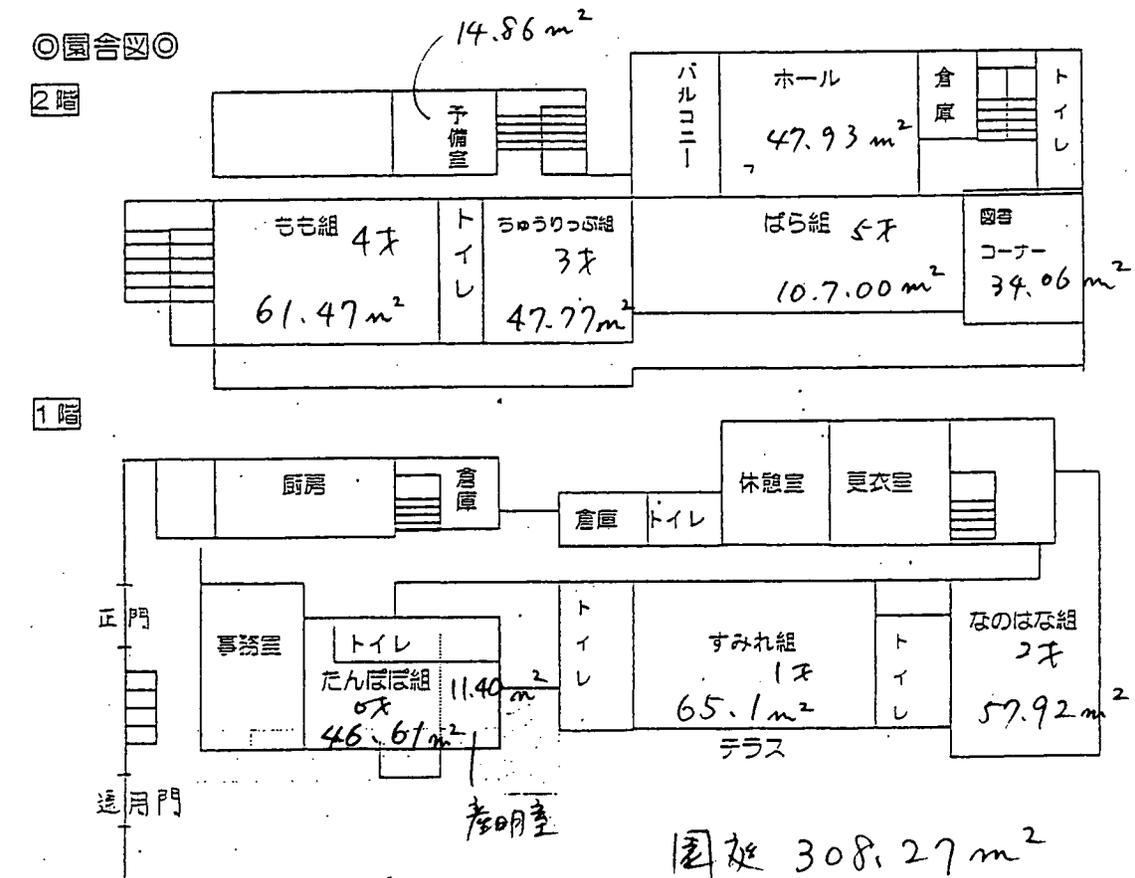
- ・命を大切にする子ども
- ・夢中になって遊ぶ子ども
 - ・想像力の豊かな子ども
 - ・助け合える子ども

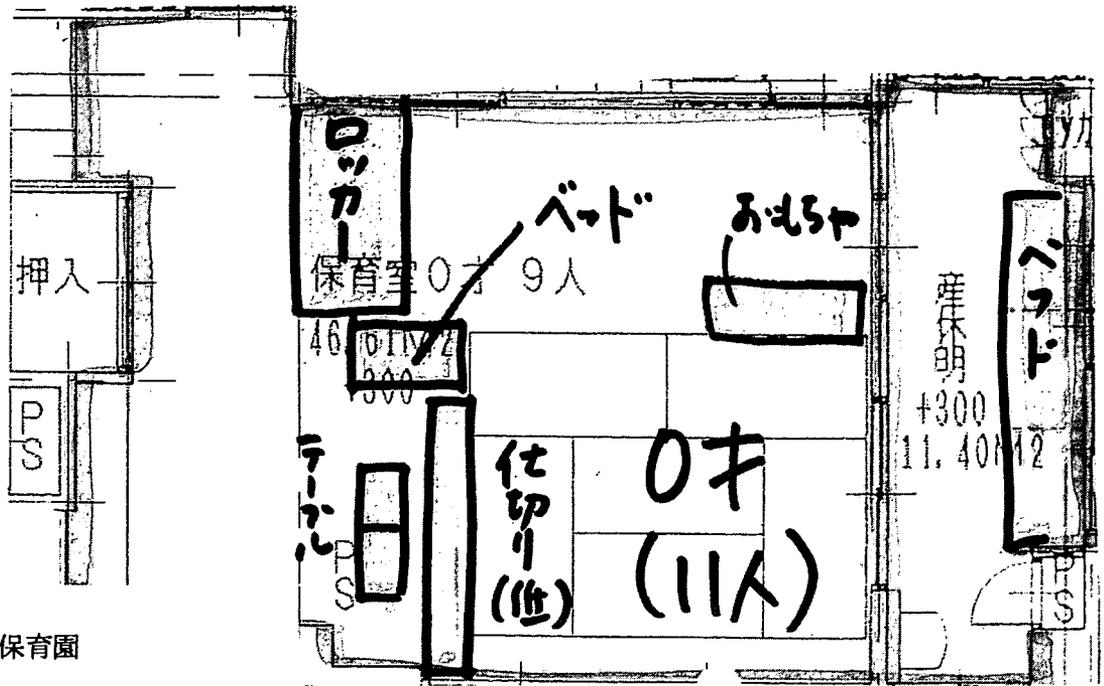
エ. 園の特徴や保育内容

保育園と保護者の方々、地域の方々と共に、「未来を担う子どもが輝ける子に育つ」ことを考え保育されている。未就園児の育児体験として、父親も母親も園活動に参加できるようになっている。保育園が、地域文庫としての役割を担い、絵本の貸し出しを行い、地域に根ざした保育園としての役割を果たしている。

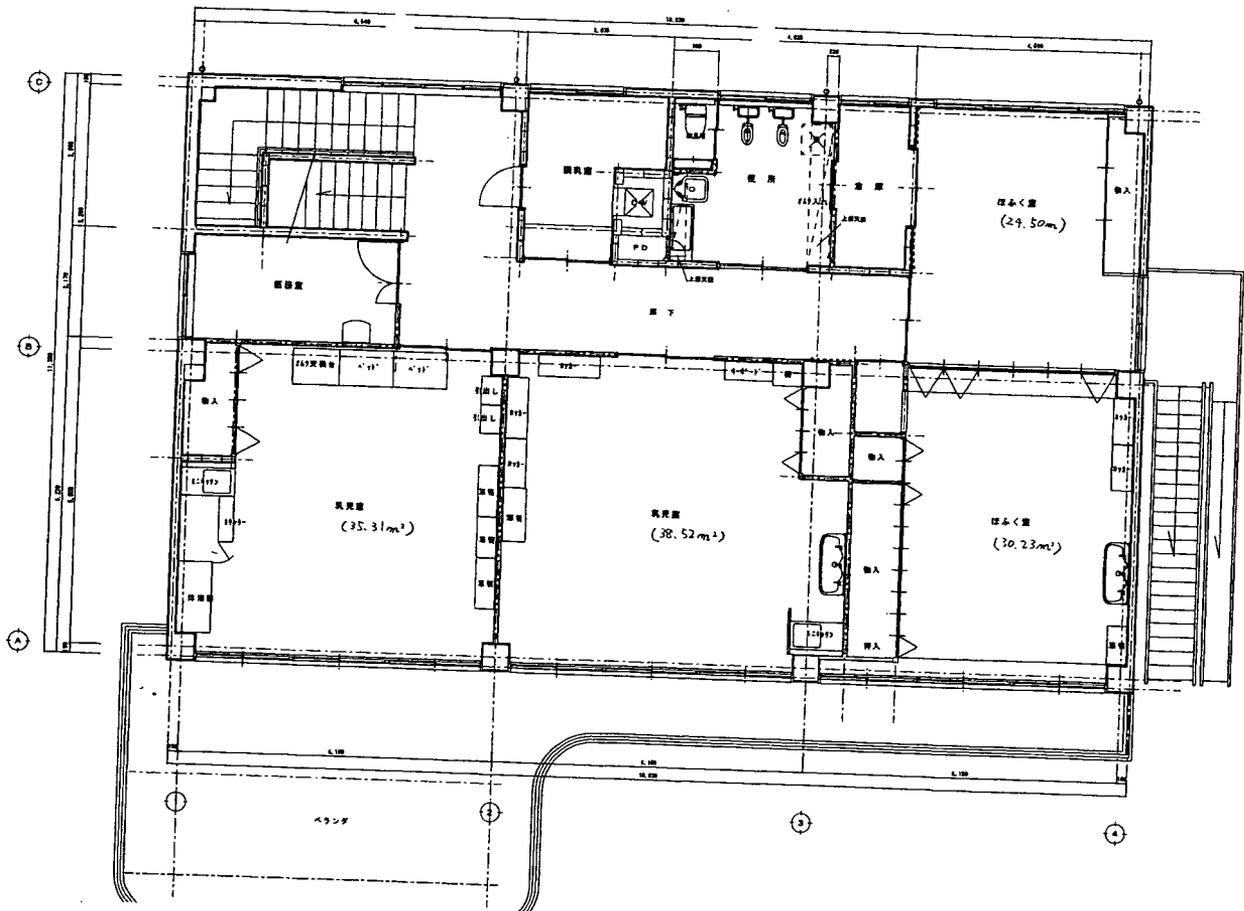
④. 芦穂崎保育園

a 平面図

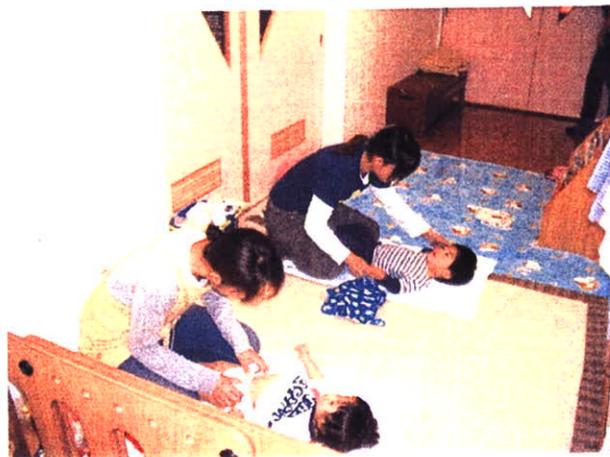


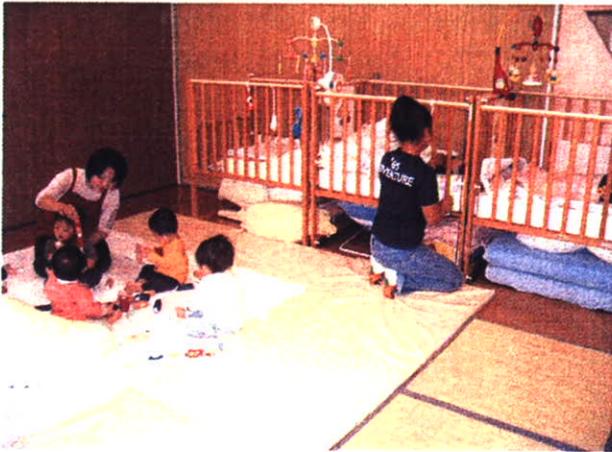
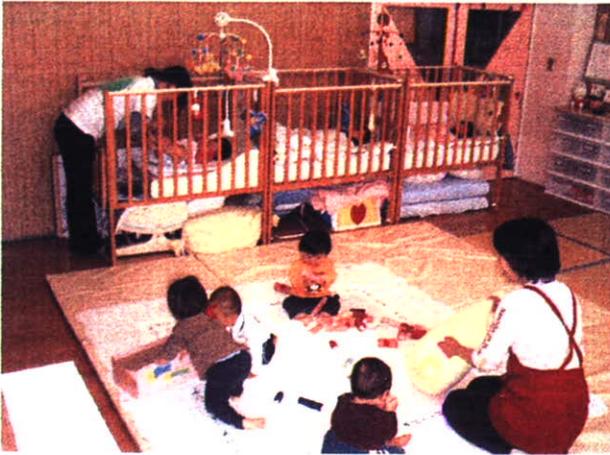


⑤. 鹿苑第二保育園
a 平面図



b 室内及び室内での活動の様子





c 保育方針

「大切なひとつの出会いだから、大切なひとつの命だから」をモットーに、かけがえのない一人ひとりの「生きる力」をはぐくむために応援することを基本としている。そのため、保育者自らが、次のような姿を目標としている。

- ・心から「ありがとう」を素直に表現し、伝えることのできる人に
- ・どんな困難にも負けず、しっかりと前を向

いて歩ける強い人に

- ・自分らしく輝き、力を尽くして人や社会の役に立てる人に
- ・命のつながりに感謝し、命を大切にできる人に
- ・思いやりと慈愛の心あふれる、優しく暖かい人に

(育ててほしい子ども像)

心身ともにたくましく・・・

- ・合掌する子ども（感謝、慈悲、愛の心を育てる）
- ・仲良く遊べる子ども
- ・はじめのある子ども
- ・考えてやりぬく子ども
- ・進んでやってみようとする子ども
- ・美しいものを感じ取られる子ども

大正 11 年真宗山門徒本山専照寺内に幼稚園を創設、しかし福井大地震で園舎が倒壊した。その後、昭和 23 年児童福祉法による保育所として福井県より認可を受け、保育事業を始められ現在に至っている。

保育内容では、子どもたちの自発性を大切にし、動きを通して様々な感覚や身体意識能力、時間・空間・因果関係意識を養い、また、心理的諸機能を育てるためムーブメント教育を取り入れられている。

d 園の特徴や保育内容

<平成 19 年度保育計画>

ね ら い	
6 カ 月 未 満	1. 保健的で安全な環境をつくり、常にからだの状態を細かく観察し、快適に生活できるようにする。 2. 一人一人の生活リズムを重視し、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安全を図る。 ・ スキンシップを十分にとりながら心身ともに快適な状態を作り、情緒の安定を図る。
6 カ 月 ～ 1 歳 3 カ 月 未 満	* 1. 2. と同じ ・ 一人一人の子どもへの愛情を基に依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。 ・ 離乳を進め様々な食品に慣れさせながら幼児食への意向を図る。 ・ 姿勢を変えたり、移動をしたり様々な身体活動を十分に行えるように、安全で活動しやすい、また、興味のもてるような環境を整える。 ・ ムーブメントによる心地よいゆれを楽しむことにより、前庭感覚を養う。
1 歳 3 カ 月 未 満 児 ～ 2 歳 未 満 児	* 1. 2. と同じ ・ 様々な食品や調理形態に慣れ楽しい雰囲気の下で食を楽しむ。 ・ 安心できる保育士との関係の下で、食事、排泄などの活動を通して、自分でしようとする気持ちが芽生える。 ・ 安心できる保育士の見守りの中で、身の回りの大人や子どもに関心を持ち関わろうとする。 ・ 保育士の話しかけや、発後が促されることにより、言葉を使うことを楽しむ。 ・ ムーブメントを楽しみ、心身ともにリラックスする。 ・ 音楽に合わせた体の動きを楽しむ。

2 歳 児	* 2と同じ
	<ul style="list-style-type: none"> ・保健的で安全な環境を作り、快適に生活できるようにする。 ・静と動の動きを取り入れ、また、変化のある繰り返しを楽しむことで集中力を養う。 ・午睡など休息の機会を作り、心身の疲れを癒し、集団生活による緊張を緩和する。 ・安心できる保育士との関係の下で、食事、排泄などの簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。 ・身の回りの自然事象に触れ、興味関心を広げる。 ・保育士と共に模倣やごっこ遊びを楽しむ。 ・身の回りに様々な人がいることを知り、徐々に友達と関わって遊ぶ楽しさを味わう。 ・ムーブメントを楽しみながら、考える力を養う。

0歳児ほふく室

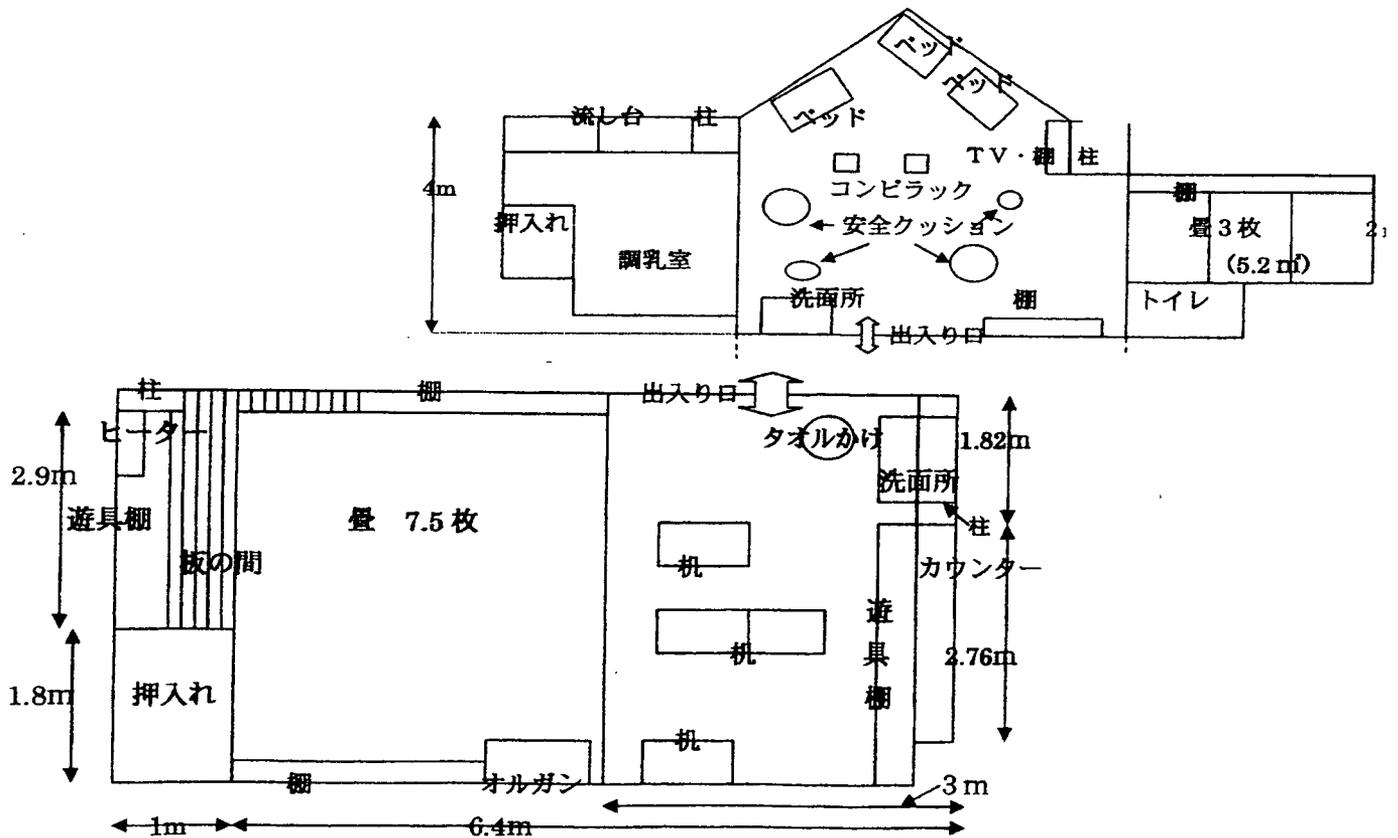
園児数 5人 保育士数 2人

●延べ面積 35.4㎡

●自由に動ける空間面積 32.7㎡

⑥豊田保育園

a 平面図



1歳児保育室

園児数 25人 保育士数 5人

●延べ面積 37.1㎡

●自由に動ける空間面積 26.8㎡

<3歳未満児の保育計画>

0 歳 児	<p>○保健的で安全な環境の中で、一人一人の生活リズムを大切に、生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心できる保育士とのかかわりの中で、甘えなどの依存的欲求を満たし情緒の安定を図りながら、子どもとの信頼関係を十分に築いていく。 ・個人差に留意して、離乳の完成、歩行の開始、発語の意欲を育てる。 ・身の回りのさまざまなものに触れ、外界に対する好奇心や関心を持つ。
1 歳 児	<p>○家庭的な雰囲気の中で、一人一人の生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄、着脱などの活動を通して自分でしようとする気持ちが生える。 ・自然や身近な遊具、用具、素材に関わって遊び、外界に対する好奇心や関心を持つ。 ・保育士の話かけや発語が促されたりすることにより、言葉を使うことを楽しむ。
2 歳 児	<p>○くつろいだ雰囲気の中で、一人一人の様々な欲求を適切に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄、着脱などの簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。 ・保育士や友達と一緒に手や指、全身を使う遊びやことばのやりとりを楽しむ。 ・興味のあることや経験したことなどを保育士や友達と好きなように表現する。

(ウ) 物的環境 (保育室にある家具や遊具)

3歳未満児の部屋に設置されている家具や遊具の主なものは次のようなものである。

- ① オムツ交換台、ロッカー、事務机椅子、タンス、収納棚、子ども用の机、椅子、ラック、ソファー、ベッド、布団収納棚、じゅうたん、畳、シート、サークル、絵本棚、たんす
- ② 素材 (ペットボトル、牛乳パック、色紙、色画用紙、古新聞、画用紙、粘土、木工材料、毛糸、牛乳パック、ストロー等)
- ③ 道具 (安全なハサミ、テープカッター、穴あけパンチ、のり、クレヨン、フェルトペン、ポスターカラー等)
- ④ 遊具 (室内用すべり台、動物ラック、大型つみき等)

(エ) 考察

ほとんどの園が、2歳児クラスの部屋より0.1歳児クラスの部屋の方が、保育室の子ども一人当たりの面積は広い。また、保育内容を見ると3歳未満児の保育では、保育士は個々の子どもに応じ保育をしている。そのため、年齢が低い子どもの保育のほうが広い保育室を確保することが必要であることがわかる。

各園では、地域交流や高齢者との交流、世代間交流を通して人間関係をはぐくむ取組みがなされている。このことは、地域の様々な人が園を訪問する機会が多く、そのことも意識した空間も必要となるであろう。

第5章 保育室の広さを操作したうえでの観察研究

1. 本章の目的

空間の広さは、生活環境の大きな要因の一つである。たとえば、部屋の広さは生活者にとっての満足度に大きく影響し、その満足する広さは、その部屋で行われる活動内容によって異なっている（平柳・高井・宮坂，1993）。また、幼児の発達という点では、園庭の面積や建物延べ面積が幼児の探索行動の発達に大きな影響を及ぼすことも明らかにされている（村井・長橋，1998）。

保育環境としての空間の狭さが幼児の発達に負の影響を及ぼす要因としては、幾つかの重要な側面が考えられる。まず、(1)空間の狭さは、中で生活する乳幼児や保育者に対して圧迫感や閉塞感をもたらし、心理的なストレスを高めると考えられる。乳幼児自身のストレスが発達に影響を及ぼすことはもちろん、保育者のストレスも保育活動に影響し、間接的に乳幼児の発達に影響を及ぼす可能性がある。次に、(2)空間の狭さは、乳幼児の活動の種類や行動量を減少させると考えられる。さまざまな活動を体験することを通して子どもは成長することを考えれば、活動の種類や行動量が少なくなることは、子どもの発達に負の影響を及ぼす可能性がある。最後に、(3)空間の狭さは、結果的に他の乳幼児との接触の機会を増やし、トラブルを発生させる可能性が高いと考えられる。他児との接触は体験のバラエティさを増すという点では必ずしも負の影響ばかりではないかもしれない。ただ、過剰なトラブルはやはり乳幼児のストレスを高めるであろうし、身体的な怪我を防ぐという点からも気をつけたいところである。

それでは、保育に適した空間とは、どのくらいの広さなのであろうか。現在、児童福祉施設最低基準によれば、乳児または満2歳に満たない幼児を入所させる保育所は、乳児室（1.65 m²以上）またはほふく室（3.3 m²以上）を設けることとなっている。一方で、こうした認可保育所とは別に、近年、地方自治体が独自に認証する保育施設も増

加しており、こうした施設では、認可保育所よりも最低基準が比較的緩く設定されていることが多い。たとえば、東京都が認証する認証保育所では、個人が設置主体となる小規模なB型の場合、0・1歳児1人当たりの面積は2.5 m²以上とされている。また、A型と称されるタイプの場合、0・1歳児1人当たりの面積は3.3 m²以上とされているが、年度途中で定員を超えて入所させる場合には2.5 m²まで可と弾力化されている。

このようにいろいろな基準が混在するなか、適正な保育空間の広さを検証した研究はほとんどないといってよい。保育空間の広さが子どもの発達にどのような影響を及ぼすか、科学的に検証することは重要な課題であるといえる。

そこで、本章では、保育室（乳児室・ほふく室）の広さが異なることにより、乳幼児および保育士の行動にどのような違いがみられるかを検討する。保育室の広さの影響を調べるためには、大きく2つの方法論が考えられる。

一つは、実際にいろいろな保育所を調査し、保育室の広さの異なる保育園同士を比較することである。この方法の困難な点は、実際に比較に適切な保育所を抽出することである。また、適切な保育所を抽出できたとしても、それらの保育所間にみられる差異が、保育室の広さに起因するものかどうかを断定することが難しいという問題もある。

もう一つの方法は、同一保育所において、子ども一人当たりの実質的な保育空間を実際に変化させ、その際の保育の様子（乳幼児および保育士の行動）を調査するものである。本研究では、この方法により、子ども一人当たりの保育空間の面積を操作することで、保育室（乳児室・ほふく室）の広さが異なることにより、乳幼児および保育士の行動にどのような違いがみられるかを検討する。

2. 研究方法

限られた空間内での観察と、生活の流れの中での観察という2つの方法で、子ども一人当たりの空間の広さを操作した研究を行った。

I 限られた空間内での観察

調査対象

第4章で協力を依頼した6保育所のうち、1つの保育所で調査した。その保育所の0歳児の男児1名とその担当保育士1名を調査対象とした。

環境の設定と手続き

保育室の一部を柵で区切り、3.3㎡と2.5㎡の空間を作った。3.3㎡条件と2.5㎡条件のそれぞれの空間で、乳児1名と保育士1名が40分間過ごした。40分間の保育終了後、保育士に感想を自由記述してもらった。

II 生活の流れの中での観察

調査対象

第4章で協力を依頼した6保育所で調査した。すなわち、全国6地域（横浜市、富山市、福井市、倉敷市、広島市、熊本市）から保育所を1園ずつ選定したことになる。それぞれの園の0歳児クラスと1歳児クラスのいずれか、または両方の乳幼児および保育士を調査対象とした。

環境の設定と手続き

一部屋で保育する乳幼児の数を調整することで、実質的な乳幼児一人当たりの保育空間の広さを、下記の3条件に設定した。（園によっては、人数操作のほうがかえって困難なため、部屋にものを置くことで、乳幼児一人当たりの保育空間を操作した。）

- 条件①「普段条件」： 普段の保育環境とし、乳幼児の実質的保育空間は園によって異なる。
条件②「3.3㎡条件」： 乳幼児の実質的保育空間を1人当たり3.3㎡程度にする。

条件③「2.5㎡条件」： 乳幼児の実質的保育空間を1人当たり2.5㎡程度にする。

行動の調査は、原則として、月曜日から金曜日までの1週間に特別な行事が含まれていない週の、火曜日から金曜日までの連続した4日間で行った。（月曜日は休日明けの影響が大きいため調査は行わなかった。）火曜日と木曜日に通常条件での保育をしてもらい、水曜日と金曜日に3.3㎡条件か2.5㎡条件のいずれかの条件で保育をもらった。（各保育所の実際の保育条件は、次ページの表に示した。）

保育士には、与えられた広さの環境において、できるだけ乳幼児にとって最善となることを意識しながら、自然な保育を心がけてもらうようお願いした。また、無理のない範囲で、各条件での保育内容は、できる限り同じ内容の保育場面を設定してもらうよう、お願いした。

保育士によるアンケート調査

実際に保育にあたる保育士には、一日の保育終了後に、次のような2種類のアンケート調査（子どもに関するアンケート調査、保育士自身に関するアンケート調査）に回答してもらった。

A. 子どもに関するアンケート

保育をしながら乳幼児一人ひとりの様子を観察し、一日の保育終了後、次の15の項目について、その日の子どもの常態について5段階評価してもらった。評価に際しては、ふだんの子どもの状態を「3」とした形での相対評価をもらった。

（各項目の詳細な説明は、附録として添付した「保育士用アンケートマニュアル」を参照のこと。）

子どもの状態に関する項目

- ①機嫌
- ②元気さ
- ③発話
- ④体全体の運動

- ⑤手指の運動
- ⑥気持ちの表出
- ⑦意欲
- ⑧他児への関わり
- ⑨保育士への関わり
- ⑩身近なものへの興味
- ⑪食事を楽しむ
- ⑫休息をとる
- ⑬清潔を保つ
- ⑭トラブル
- ⑮部屋を出ようとする

B. 保育士自身に関するアンケート

一日の保育終了後、その日の保育士の自分自身の保育や行動、心理状態に関して、次の 15 の項目について、5段階評価してもらった。評価に際しては、ふだんの自分の状態を「3」とした形で相対評価してもらった。(各項目の詳細な説明は、附録として添付した「保育士用アンケートマニュアル」を参照のこと。)

<自分自身の保育について>

- ①健康状態等の観察
- ②語りかけ、言語のやりとり
- ③食事の援助
- ④排泄等の援助
- ⑤衣服等の着脱
- ⑥睡眠・休息への配慮
- ⑦安全への配慮
- ⑧環境の構成、環境の整備

<自分自身の行動について>

- ⑨運動量・活動量
- ⑩声の大きさ・口調

<自分自身の心理状態について>

- ⑪圧迫感
- ⑫疲労感
- ⑬緊張感
- ⑭慌ただしさ
- ⑮焦り・いらだち

ビデオ録画

保育室の天井にカメラ（防犯用 CCD カメラ）を設置し、午前9時から午後3時頃までの6時間、保育の様子をビデオ撮影した。

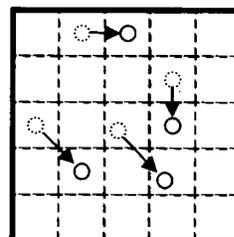
今回は、自由遊び時間（最初の10分間）の内容について、ビデオ撮影した内容を、下記の観点で分析した。

A. 乳幼児の移動量

観察空間を 1.5 m²の正方形に分割し、他の空間へ移動した場合を1単位の移動とみなし、観察時間の間に一人ひとりの乳幼児が何単位移動したかをカウントした。移動の量は次のように定義した。

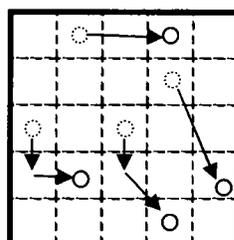
(移動1とカウントする場合)

- ・境界線に垂直に1空間分横断した場合
- ・境界線に斜めに一直線に移動した場合で、縦横いずれの方向にも1空間分しか移動していない場合



(移動2とカウントする場合)

- ・境界線に垂直に2空間分横断した場合
- ・境界線に斜めに一直線に移動した場合で、縦横いずれかの方向に2空間分移動した場合
- ・1空間分移動した後に、途中で方向転換をし、1空間分移動した場合



B. 他児との接触頻度

他の子どもと接触の頻度を 10 秒単位の 1-0 サンプル方式によりカウントした。すなわち、記録対象とした 10 分間を 10 秒毎に 60 ブロックにわけ、それぞれのブロックで他の子どもとの接触があったかどうかを確認し、他の子どもと接触があったブロックの数をカウントした。

C. 乳幼児の姿勢・身体の状態

10 秒間隔のポイントサンプリング方式により、乳幼児の姿勢や身体の状態を観察し、下記のいずれの状態にあるかをチェックした。

- ①仰向けに寝ている
- ②うつ伏せになっている
- ③座っている
- ④立っている

- ⑤ハイハイで移動している
- ⑥二足歩行で移動している
- ⑦保育者に抱かれている

D. 乳幼児の姿勢・身体の状態

10 秒間隔のポイントサンプリング方式により、乳幼児の状態を観察し、下記のいずれの状態にあるかをチェックした。

- ①何もしていない
- ②何かを見ている（注意を払っている）
- ③自分の身体を動かしている
- ④玩具などで一人で遊んでいる
- ⑤保育士と関わりあっている
- ⑥保育士に制止されている

3. 結果

I 限られた空間内での調査

柵で空間を仕切り、限られた空間内で実際に保育している様子の写真を図5-1に示した。上側

は3.3㎡条件、下側は2.5㎡条件である。いずれも写真の右下のスペース（ピンク色のマットの部分）は含まないが、今回設定した空間となる。中に入っている保育士と子どもは、3.3㎡条件も2.5㎡条件もどちらも同じ人である。

(3.3㎡条件)



(2.5㎡条件)



図5-1 限られた空間内での保育の様子

写真からわかるとおり、3.3㎡条件も2.5㎡条件も、子ども一人がほふく等をするためのスペー

スとしては、十分な広さであると思われる。しかし、中に保育士が入ると少々手狭な感じとなる。

保育士がたんに座っているだけならば、とくに問題は無いが、子どもの周りを動いたり、かがんだりするなど姿勢を代えると、窮屈さはより強くなる。ちょうど図5-1では、子どもに対してかがんでいる場面であるが、3.3 m²条件の方は正方形のスペースの写真上の左右の軸になんとか向かい合うことができるが、2.5 m²条件では左右の軸では向かい合うことはできず、向かい合った態勢を

とるためには正方形の対角線上に位置しなければ難しい。

実際に調査に協力してくれた保育士の保育後の自由感想を表5-1に示した。保育士の感想からも、2.5 m²になるとかなり圧迫感が強くなることが示される。また、子どもの行動にも違いが見られる。

表5-1 調査に協力してくれた保育士の感想

3.3 m ² 条件	2.5 m ² 条件
<p>少し圧迫感があったが、保育士が子どもと同じ目線になった時に、ある程度の距離があったので、移動遊びをしている際、子どもも保育士も十分に動いて遊ぶことができた。また、子どもも、自分の行きたいところへ移動したり、柵につかまり立ちをしたりと、意欲的に動き、機嫌よく過ごすことができていたと思う。</p>	<p>3.3 m²条件と比べて、見た目はあまり変わらないと思っていたのだが、実際にその場に入ると、圧迫感を感じ、あまり動くことができなかった。子どもと目線を合わせた時の距離が近く、移動遊びをするが、範囲が狭いため、あまり動けず、盛り上がり欠けていたと思う。また、距離が近いこともあってか、柵ではなく保育士の膝でつかまり立ちをしようとしたり、抱っこを求めたりすることが増えたように思う。十分に動いて遊べないということもあり、後半は少し機嫌が悪かった。私自身も後半、疲労を感じた。</p>

II 生活の流れの中での観察

(1) 調査の条件

今回実際に調査した条件は、表5-2のとおりである。方法でも述べたとおり、子ども一人当たりの面積の設定は、園によって方法が異なる。A保育園、C保育園、D保育園、E保育園については、1部屋に入る子どもの人数を操作することにより、B保育園、F保育園については、家具などで部屋を仕切ることによって、広さを操作している。また、A保育園とE保育園については、2つの保育室で調査し、他の園は1つの保育室のみで調査したが、園によって、

一つの部屋に入る子どもの年齢は必ずしも一定していない。

(2) 各園における実際の保育の様子

自由時間(遊びの時間)、食事の時間、午睡の時間の3つの時間について、3.3 m²条件での保育の様子と2.5 m²条件での保育の様子の違いを視覚的に理解してもらうために、各保育所における実際の保育の様子を、ビデオ記録をもとに写真にとり、図5-2から図5-8として示した。

写真を見てもわかるように、実際の保育室の空間の使い方は、保育所によって異なっていた。

最初から、食事等のための空間と遊び等のための空間を仕切っている保育所もあれば（A保育園、C保育園、F保育園）、とくに空間を仕切らず、時間帯によって空間の使い方をかえている保育所もあった（B保育園、D保育園、E保育園）。

空間を仕切っている保育所の場合、遊びの際の空間は、必然的により狭いものになっており、

2.5 m²条件のように面積を狭めることによって、かなり手狭な印象が写真から得られた。空間を仕切っていない保育所の場合、静止画からは一見するとあまり狭いという印象は受けにくい。しかし、動画からは、遊びから食事へ、食事から午睡へというように、場面をきりかえる作業の際に、2.5 m²条件の場合、保育士の作業がやりにくく時間がかかるという印象が得られた。

表5-2 実際に調査した条件

園	クラス	観察日	条件	子どもの人数
A園	0歳児	10月23日	普段	15人
		10月24日	3.3 m ²	14人
		10月25日	普段	15人
		10月26日	2.5 m ²	18人
	1歳児	11月06日	普段	16人
		11月07日	2.5 m ²	17人
		11月05日	普段	16人
		11月09日	3.3 m ²	13人
B園	0-2歳児	12月18日	普段	11人
		12月19日	3.3 m ²	11人
		12月20日	普段	10人
		12月21日	2.5 m ²	12人
C園	0-1歳児	11月28日	3.3 m ²	26人
		11月29日	普段	40人
		11月30日	2.5 m ²	34人
		12月04日	普段	41人
D園	1歳児	12月18日	普段	17人
		12月19日	3.3 m ²	11人
		12月20日	普段	23人
		12月21日	2.5 m ²	15人
E園	0歳児	12月03日	普段	16人
		12月04日	3.3 m ²	9人
		12月05日	普段	17人
		12月06日	2.5 m ²	12人
	1歳児	11月12日	普段	19人
		11月13日	3.3 m ²	12人
		11月14日	普段	18人
		11月15日	2.5 m ²	16人
F園	0歳児	1月22日	3.3 m ²	10人
		1月23日	普段	10人
		1月24日	2.5 m ²	9人
		1月25日	普段	10人

遊びの時間の様子

3.3 m²条件



2.5 m²条件



食事の時間の様子

3.3 m²条件



2.5 m²条件



午睡の時間の様子

3.3 m²条件



2.5 m²条件



図5-2 A保育園の保育の様子

遊びの時間の様子

3.3 m²条件



2.5 m²条件



食事の時間の様子

3.3 m²条件



2.5 m²条件



午睡の時間の様子

3.3 m²条件



2.5 m²条件



図5-3 B保育園の保育の様子